

農村女性による地域づくりと福祉のつながりを示すための 文献レビュー

大木 えりか

要旨

本稿においては、農村における女性の活動による地域づくりについて、福祉とのつながりを抽出することを目的として文献レビューを実施した。論文の検索方法は、CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）を使用し、検索キーワードとして、「農業／女性」「農村／女性」「農業／女性／福祉」「農村／女性／福祉」の4つのパターンを使用した結果、本稿のテーマに即した20の文献を抽出した。抽出された文献をコーディングしたところ、「農村女性のエンパワメント」「食と農と福祉の連携」の2つのフレームワークが設けられ、考察の結果、農村女性による地域づくりによって「共生型社会の形成」が具現化される可能性が示された。

キーワード：農村女性、地域づくり、福祉、エンパワメント

1. はじめに

昨今においては、農村における農林水産業と地域の活性化の担い手として女性の活躍が期待されており、その活動を推進する施策としてさまざまな事業が展開されている(表1)¹⁾。実例として、青森県の「農山漁村女性地域共生モデル実証者の募集」があげられる。青森県は、農山漁村における人口減少や高齢化の進行により、集落の生活を相互扶助により支えてきたコミュニティ機能が低下しているといった深刻な課題の解決を図るため、令和4年に農山漁村女性地域共生モデル実証者を募集している。地域共生モデル実証者として農山漁村女性がふさわしいとする理由について、「女性農林漁業者は、地域農林水産物や郷土料理、地域の食文化を活用し、直売や農産加工、農家レストラン、農家民宿などの起業活動を行っており、これらの起業活動のノウハ

ウは、『食』に関連する地域課題解決の取組に生かすことができる」としている。着目されるのは、「農山漁村女性地域共生モデル実証者」の条件のひとつとして、「地域内の農業以外の業種（行政、福祉、医療関係等）と連携し、地域農林水産物や郷土料理、食文化等の『食』に着目した、地域課題解決につながる活動が可能であること」があげられていることである。青森県が掲げる「農山漁村女性地域共生モデル」は、「農山漁村女性の得意分野である『食』に着目した共助のモデルとなるとりくみ」であると説明されている。この説明においては、「農山漁村女性」「食」「共助」というキーワードが使われており、農村女性と食と福祉の関連性がうかがえるものである。

農村の女性たちはそれぞれの地域において、農業のみならず家事や介護など、多様な役割を担ってきた歴史的背景がある。地域で資源を共有し活用し、コミュニティを維持しなが

表 1 女性の活躍推進に向けた事業【令和元（2019）年度】

事業名	女性の活躍推進に向けた取組内容
人・農地問題解決加速化支援事業	人・農地プランの作成に必要な取組事項の検討と当該プランの決定のために設置する、関係機関と地域の農業者等による検討会のメンバーの概ね3割以上は女性農業者で構成することを要件化
強い農業・担い手づくり総合支援交付金	女性が主体の取組の場合に配分ポイントの加算や農産物加工に必要な施設整備の要件を緩和
6次産業化の推進	女性による取組事例の情報提供等を通じて、女性による6次産業化等の取組を促進
持続的生産強化対策事業のうち農作業安全総合対策推進事業	女性等が安全に活躍できる環境づくりに向けて、農業者ごとの状況に応じた安全情報等を積極的に発信し効果的に農業者の安全意識を向上させる取組について支援
農山漁村振興交付金	農山漁村が持つ豊かな自然や「食」を活用した地域の活動計画づくりや実践活動（地元食材を活用した新商品の開発・販売等）、地域文化の伝承等の能力発揮、地域住民の活動促進に必要となる施設及び付帯施設整備（地域住民活動支援促進施設）を支援
中山間地域等直接支払交付金	中山間地域等の農業生産活動を継続できるよう、新たな人材の確保や集落間で連携した活動体制づくりを後押ししつつ、とりわけ条件の厳しい超急傾斜地の農用地の保全・活用に関する活動を支援

※ 農林水産省作成資料

ら生活している。「農業以外の業種（行政、福祉、医療関係等）と連携し、地域課題解決につながる活動が可能」であるのは、持続可能な共同体を形成する過程のなかで、産業による地域活性化にとどまらず、地域住民同士で支え合う福祉文化が醸成されてきたからではないかと考えられる。

農業と福祉が結びついている代表的な分野として、一般的な「農福連携」とされている障害のある人の就業分野のつながりがある。この分野については、多くのとりくみ事例が紹介されている（合田 2022, 矢口 2020）。また、農業と高齢者のつながりについても、1999年に制定された「食料・農業・農村基本法」²⁾において、「農業の福祉的機能がうたわれている（中條 2016）」ことからみることができる。同法の第 27 条「高齢農業者の活動の促進」において、「国は、地域の農業における高齢農業者の役割分担並びにその有する技術及び能力に応じて、生きがいを持って農業に関する活動を行うことができる環境整備を

推進し、高齢農業者の福祉の向上を図るものとする」とされている。

以上の検討をまとめると、農村女性、食、農、福祉は関連性が見出されるものであると考えられる。したがって、本稿において、これらの連携について、どのような現状と課題があるのかを把握し、農村女性による地域づくりと福祉のつながりを示すための文献レビューを試みる。

2. 本稿における文献レビューの意義

農村女性による地域づくり活動について記述された文献は数多く著されている。しかし、その地域の特異性・独自性を強調し、実践内容の紹介や活動体が生まれた経緯や、活動の成功などの記述にとどまっているものも多い。一方で、インタビューやアンケートによる調査が実施され、データの分析によって結果と考察が導かれている先行研究もあり、一定の研究成果は見出されている。しかし、農村女性の活動による地域づくりと福祉のつながりに着目して、その実態や意義を論じている論

文は極めて少ない。

先章にてとりあげたように、青森県においては、「農山漁村女性地域共生モデル」を掲げてその実証者を募集している。この施策から、農村女性と福祉のつながりは活動として具現化されるものといえる。また、直接的に施策に関連していなくとも、農村女性と福祉のつながりによって展開されている活動は存在しており、事例を報告している文献を吟味する必要性も見出される。

本稿は、各々の文献によって知見が示されている農村女性の地域づくりと農福連携の分野について、そのつながりを明らかにしようとするところに意義があるものといえる。

3. 方法

(1) 目的

本稿の目的は、農村女性による地域づくりについて、福祉とのつながりを導き出すために、文献レビューを実施することである。文献レビューを通して、「農村女性による地域活動は、地域の福祉文化が醸成される土壌となっているのではないか」という「問い」に対して、妥当性があるという根拠を明示することを研究課題とする。

(2) 文献の検索方法

文献データは、CiNii (NII 学術情報ナビゲータ) を使用して検索を実施した。検索キーワードは、「農業／女性」「農村／女性」「農業／女性／福祉」「農村／女性／福祉」の4つのパターンを決定し、検索に使用した。

4つの各パターンのキーワードを用いて検索し、極力昨今の実情をふまえた文献を入手するために、概ね過去10年間に発表された論文をレビューの対象とした。

(3) 文献のスクリーニング方法

本稿は、農村女性の地域づくりと福祉のつながりを示すために文献レビューを実施する

ものである。本稿のテーマに即して、4つのパターンのキーワードを用いて検索した文献のうち、選択基準と除外基準を設けてスクリーニングを実施した。選択基準は、①日本の農村女性の活動を対象としている文献、②農業と福祉が結びついている活動を対象としている文献、③地域における農村女性の活動と福祉活動を対象としている文献のいずれかに該当するものとした。除外基準は、①農村女性の活動について経営・経済学的な視点からとらえている文献、②農村女性による活動事例の内容紹介のみの文献、③一般的な「農福連携」とされている障害のある人の農福連携のみ対象としている文献、④農村女性の高齢者介護をテーマとして論じている文献のいずれかに該当するものとした。

4つの各パターンのキーワードを用いて検索して得られた文献について、テーマ、要旨、序論などを概観し、除外基準に該当するものは対象外とした。農村女性による活動事例や農業と福祉が連携している活動事例を題材にしている文献のうち、研究手法にのっとって調査や分析がなされていないものについても、農村女性による地域づくりと福祉のつながりに対する示唆が得られる記述があるものは対象とした。

以上のスクリーニングによる結果、農村女性の地域づくりと福祉のつながりを示しうるものとして20件の文献を抽出した。

(4) 分析方法

定性的なデータ分析のためのQDAソフトである「NVivo」を使用した。「NVivo」を用いて文献のコーディングを実施し、さらにコードを相互に関連づけるためにコンセプトマップ機能を利用した。コンセプトマップ機能により、農村女性の活動による地域づくりと福祉のつながりを抽出しうるよう論文マップを作成した。抽出した論文の内容は、「起業活動」「農業の多様化・多角化」「6次産業」「イ

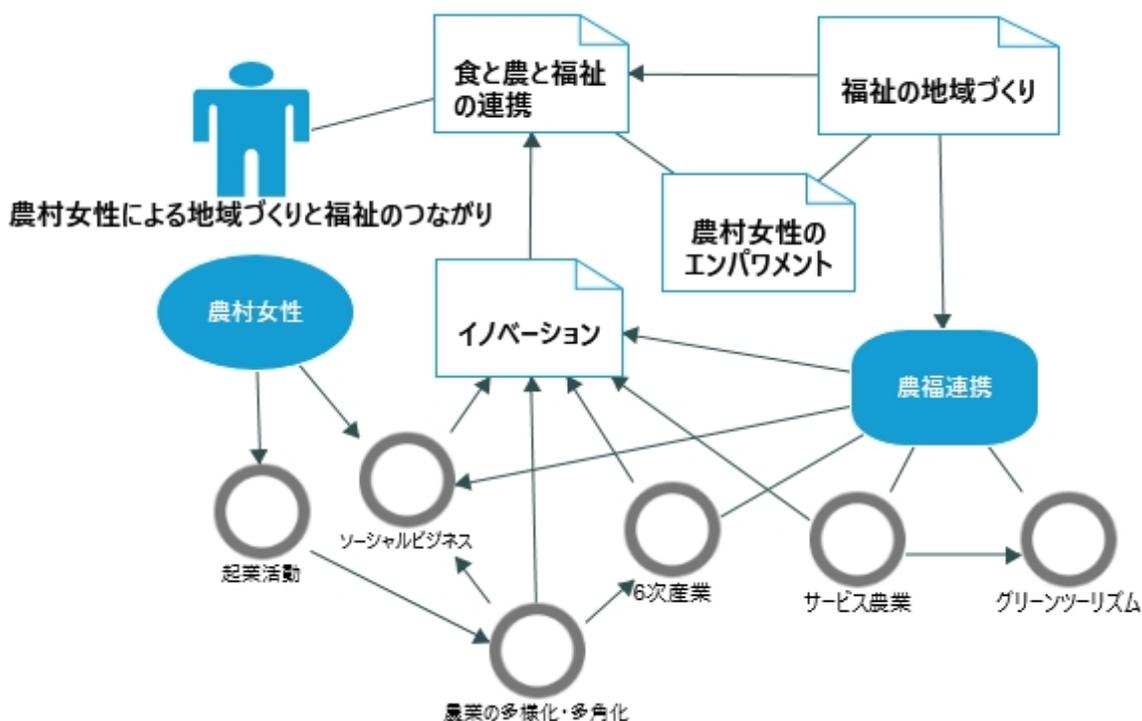


図1 農村女性の地域づくりと福祉のつながりを示す論文マップ（筆者作成）

* 「→」はそのコードが示す人や事象から派生しているという関係性を表している。

「イノベーション」「ソーシャルビジネス」「農村女性のエンパワメント」「福祉の地域づくり」「サービス農業」「グリーンツーリズム」にコード化された。コードを「農村女性」と「農福連携」に分け、本稿の研究課題に沿って、「農村女性による地域づくりと福祉のつながり」のテーマにつながるようにコード同士をコンセプトマップによって関連付け、図1に示す論文マップを作成した。複数のコードと関連付けられたコードのうち、「農村女性のエンパワメント」「食と農と福祉の連携」「福祉の地域づくり」「イノベーション」の4つのコードについて、「農村女性による地域づくりと福祉のつながり」に近く重要性の高いコードとして示した。

4. 結果

コーディングによって作成された論文マップをもとに、「農村女性のエンパワメント」「食

と農と福祉の連携」の2つのコードをフレームワークとして設定し、文献レビューを記述する。選択した2つのコードを文献レビューのフレームワークとして設定した理由は、「農村女性による地域づくりと福祉のつながり」を導き出すうえで、「食と農と福祉の連携」は最も近い概念であり、「農村女性のエンパワメント」は重要な理念であることによる。

(1) 農村女性のエンパワメント

農村女性による地域づくりに対しては、そのプロセスにともなう農村女性のエンパワメントの重要性について論じられている（五艘2021, 上村2018）。しかし、エンパワメントの意義に対する解釈については誤解されることも多く、女性がスキルを身につけて経済力を向上させることという意味でとらえられがちである。同様に、農村女性の活動においてエンパワメントが論じられる場合も、エンパワメントの概念が吟味されないままに、「農業経営な

どに携わることによって活躍し、社会的地位や経済力を向上させること」を指していることが多い。したがって、エンパワメントの概念について吟味し、そのうえで農村女性の地域づくりとの関連について考察する。

エンパワメントについて、森田(1998:14)は、「人と人との関係のあり方」であり、「お互いがそれぞれ内にもつ力をいかに発揮しうるかという関係性」であると説明している。森田(1998:14)がエンパワメントの説明で言及している「関係性」について、北野(2008:1)は、「共生」の検討において非常に重要なキーワードだという見解を示している。森田(1998:14)と北野(2008:1)がその重要性を説いている「関係性」という概念は、「エンパワメント」と「共生」に共通するものであり、農村女性による地域づくりと福祉のつながりを具現化するのに不可欠なエッセンスであると考えられる。

(2) 食と農と福祉の連携

農林水産省食料産業局による『平成26年度地域における食と農と福祉の連携のあり方に対する実態調査事業報告書』(2012)においては、「食や農といった地域資源の価値に着目し、それを活用しながら地域住民の暮らしを豊かにしたり、地域外の人々に対しても憩いや癒しといった福祉的な価値を提供する」など、「食と農と福祉」が一体となって展開しているコミュニティビジネスの意義について報告している。

この報告書における調査内容をふまえ、横谷・則藤(2019)は、農山漁村地域が抱える過疎化・高齢化に対する課題解決を視野に入れて、福祉と産業が融合する高齢者農業の枠組みについて論じている。事例検討を通して、「農業と農業」、「農業と食」、「農業・農活動と福祉」をつなぐゲートキーパーによる橋渡しや助言の必要性があげられている。横谷・則藤(2019)は、「自助」や「互助」を醸成

する場とそれを補完するゲートキーパーという要素の必要性を指摘している。ここでも、「関係性」を軸に置いた「食と農と福祉の連携」の意義について洞察しうる。

5. 考察

文献レビューを実施した結果から、農村女性による地域づくりと福祉のつながりについて、以下に3点の考察を述べる。

- (1) 農村女性の地域づくりはエンパワメントプロセスでもあり、人、自然など次元の異なる資源の「関係性」を基盤としている。
- (2) 福祉の地域づくりの中核的な構成要素として「共生」があり、「共生」も「エンパワメント」と同様に「関係性」を重視するものである。
- (3) 上述の(1)(2)の見解にもとづき、農村女性の地域づくりは、「共生」を核とする福祉文化を醸成するものであるといえる。

本稿の文献レビューを通して、昨今の地域づくりについては、「共生型社会の形成」というフレームワークが根底にあることが浮かび上がった。これは、冒頭の章でとりあげた青森県の施策の理念とも一致する。地域づくりの観点からみると、「共生型社会の形成」というフレームワークは本稿でとりあげた農業のほか、建築、交通といった分野においても通底していることがうかがえる。この傾向について、北野(2008)は、「経営・経済的なアプローチだけでなく、『関係性』に着目した人間科学的なアプローチから地域づくりや開発の問題を考えることも有用である」と述べている。農村女性による地域づくりについて、「関係性」を核とするエンパワメントプロセスそのものにとらえれば、農

村女性による農福連携は促進されやすいのではないかと考えられる。

以上の検討から、「農村女性による地域活動は、地域の福祉文化が醸成される土壌となっているのではないか」という「問い」に対し、妥当性を裏付ける文献レビューが実施できたと考えられる。

6. 今後の研究に向けて

食と農と福祉が連携する先進事例は多く存在し、そのなかには、農村女性の地域づくりによる事例も存在していると推察される。しかし、食と農と福祉の連携について、農村女性が促進要因であるということ、アンケートやインタビューによって収集したデータを何らかの研究方法によって分析を加えて明らかにしている研究調査はみられない。

今後は、本稿の文献レビューによって整理された農村女性による地域づくりと福祉のつながりをふまえて、調査するにふさわしい研究対象にアクセスし、フィールドワークを実施したいと考えている。本稿においてとりあげた「農山漁村女性地域共生モデル実証者の募集」を手がかりに、青森県農林水産政策課にヒアリング調査を依頼し、モデル実証者にアクセスすることを試みる予定である。モデル実証者にアクセスすることが可能となれば、農村女性の地域づくりにともなって福祉文化が醸成されてきたプロセスについて、フィールドワークによって記述したいと考えている。

* 本稿は、「令和2年度学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）研究等補助金」の交付により執筆したものである。

注

1) 『令和元年度 食料・農業・農村白書』「第1部 食料・農業・農村の動向 特集2 輝きを増す女性農業者」に掲載されている

「図表 特2-3」を引用している。

2) 現行法は2022年7月1日に改正されたものである。

文献

青森県農林水産政策課（2022）「令和4年度農山漁村女性地域共生モデル実証募集要領」。

青山 浩子（2017）「女性が動かす農業，そして農村社会」『農業経営研究』55（1），23-31.

五艘 みどり（2021）「京都府和東町のルーラルツーリズムに見る農村女性のエンパワーメント」『日本観光研究学会全国大会学術論文集』36, 179-184.

合田 盛人（2019）「農福連携を活用した福祉教育の現状と課題について—木島平村社会福祉協議会の取り組みから」『長野大学紀要』41(1), 99-107.

合田 盛人（2022）「農福連携の実施主体が実践行為から中間支援へ移行したプロセスの分析」『日本農村医学会雑誌』71（4），321-331.

原 珠里・堀田 和彦（2014）「農村女性起業の組織的展開に関する考察—『古座川ゆず平井の里』を事例に」『農村研究』(118), 29-40.

堀 正和（2020）「新体制移行後の女性農業委員登用の実態」『農村経済研究』38（1），62-71.

北野 収（2008）『共生時代の地域づくり論—人間・学び・関係性からのアプローチ』農林統計出版.

河野 律子（2017）「農山漁村の起業活動から、農業の6次産業化へ—民間と公共の2つの支援の立場を体験して」『農村生活研究』60（2），17-20.

熊井 治男・友田 清彦・北田 紀久雄（1993）「農漁村における女性の役割と生活に関

- する考察—三重県鳥羽志摩農協婦人部アンケート調査から(2)』『日本農村生活研究会』372,20-25.
- 牧野 友紀 (2018)「東日本大震災後のグリーン・ツーリズムと農のある生活の再構築」『社会学研究』102, 9-33.
- 松本 文子 (2013)「都道府県レベルで見た農村における女性参画状況についての統合指標の検討」『環境情報科学論文集』27, 347-350.
- 宮城 道子 (2014)「農村女性起業における当事者性と持続可能性」『サステイナビリティ研究』4,111-124.
- 森田ゆり (1998)『エンパワメントと人権—こころの力のみなもとへ』解放出版社.
- 中條曉仁 (2016)「高齢者の生活にみる農村の価値」『日本地理学会発表要旨集』.
- 農林水産省食料産業局 (2012)『平成26年度地域における食と農と福祉の連携のあり方に対する実態調査事業報告書』.
- 農林水産省 (2020)「第1部 食料・農業・農村の動向 特集2 輝きを増す女性農業者」『令和元年度 食料・農業・農村白書』, 19-57.
- 大江 靖雄 (2018)「農村ツーリズムと女性」『農村計画学会誌』37 (1), 29-32.
- 澤野 久美 (2010)「農村女性起業の新たな可能性—高齢者福祉を中心に」『農業経営研究』48 (1),136-141.
- 澤野 久美 (2018)「地域づくりにおける農村女性起業の役割と課題」『農村計画学会誌』37 (1), 25-28.
- 志賀 文哉 (2020)「農福連携と高齢者の社会参加について—家族農業の10年と関連付けて」『富山大学人間発達科学部紀要』15 (1), 141-147.
- 館山 壮一 (2022)「地域共生社会の実現に向けた新しい農福連携のあり方について」『修紅短期大学紀要』43 (1), 1-14.
- 植田 淳子 (2022)「農村における女性の学びの場づくりと大学連携の意義に関する一考察—農村における交流事業を事例として」『和歌山大学 Kii-Plus ジャーナル』2, 69-77.
- 上村 協子 (2018)「女性と持続可能な農山村地域社会」『農村計画学会誌』37 (1), 11-14.
- 矢口 芳生 (2020)「福祉的・療養的農業」の新たな展開可能性『福知山公立大学研究紀要』4 (1), 231-254.
- 横谷 貴之・則藤 孝志 (2019)「福祉と産業が融合する高齢者農業の枠組みに関する研究—福島県西会津町を事例に」『福島大学地域創造』31 (1), 49-57.

執筆者紹介 (所属)

大木えりか 八戸学院大学 健康医療学部
人間健康学科 講師